

効果検討の進め方（第3回）

	第1回委員会	第2回委員会	第3回委員会
委員会における検討内容	「香椎地区（御島）シーブルー事業について」	「調査結果と評価について」	「事業効果のとりまとめについて」
	<p>1. 事業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シーブルー事業とは ・工事概要(覆砂・作濤) ・事前環境の状況 <p>2. 調査概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査計画 ・調査実施状況 ・評価項目(案) 	<p>1. 効果と評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価の考え方 <p>2. 調査内容と調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査方法(採取、分析方法) ・調査結果 <ul style="list-style-type: none"> 覆砂(底質・生物) 作濤(流況) ・効果(評価案) <p>3. 評価(案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果の総括評価(案) <ul style="list-style-type: none"> 覆砂効果 作濤効果 ・とりまとめの方向性(報告書の構成案) 	<p>1. とりまとめ(素案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局素案 <p>2. 今後の事業(意見交換)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香椎地区 ・その他
	<p>↓ 意見</p> <p>↓ 意見</p> <p>↓ 意見</p>		
委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・シーブルー事業の目的、関連計画などの関係を明確にすべき。 ・ICモタ等のデータ活用し、検討が必要。 ・シーブルー技術手法の選定理由を明確に。 ・長期のモニタリングも検討を。 etc. 	<p>(覆砂効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海藻も評価したほうが良い。 ・魚類の量の増大を言うのは難しい。 ・浮泥堆積のメンテ、長期的調査の検討が必要。 ・周辺の水底質データを加味した整理が必要。 ・食物連鎖の記述を入れた方がよい。 <p>(作濤効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海水流量変化の記述は注意が必要。 etc. 	<p>↓</p> <p>《委員長一任》</p> <p>↓</p>
事業効果報告書	<p>↓ 反映</p> <p>報告書(案)</p> <ul style="list-style-type: none"> シーブルー事業の概要 香椎地区の環境 覆砂の効果 作濤の効果 	<p>↓ 反映</p> <p>報告書(案)</p> <ul style="list-style-type: none"> 覆砂の効果 作濤の効果 まとめ 	<p>↓ 反映</p> <p>報告書とりまとめ</p> <p>↓</p> <p>公表</p>

第2回 香椎地区（御島）シーブルー事業効果検討委員会議事概要

覆砂効果について

（委員）

- ・海藻類が多く繁茂しており、生態系の基礎となる部分であるので、評価の中に入れてはどうか。
- ・溶出量と酸素消費量の結果は、生物の多いところでは、覆砂の効果として出すのは難しい。
- ・生物寄与分を、「処理なし」 - 「ふるい処理」と単純に引き算するのは、コア内の構造をふるいにより壊していることを考慮しておらず、無理がある。結論は生物寄与であろうが、ふるい処理の方法とそれによる問題点を明記したほうがよい。

（委員）

- ・17頁の「底生魚類の多様化と量の増大」は、多様化については言えるかもしれないが、量の増大を言うのは難しい。
- ・この海域が浅く、貧酸素になりにくいいため、覆砂の効果が出やすかったのではないかと。条件の違う他の海域で施策展開するときには注意する必要がある。

（委員）

- ・硫化物の減少効果が持続できるかわからないということだが、硫化物の起源が新生堆積物であるなら、覆砂区の中だけではなく、周辺からも供給があり、減らないと思う。

（委員）

- ・硫化物詳細調査で、有機物の調査がされていない。
- ・硫化物(AVS)が増える原因は、有機物の増加か、硫酸イオンによるものか。
（事務局）周辺でアオサ等が多く見られることから、これらの分解が影響していると思われる。

（委員）

- ・増えた藻類が底でいつも腐るのであれば、マイナス要因である。潮汐流が藻類の分解の場を広げているかなどは、硫化物増加の起源と結びつくかもかもしれない。

（委員）

- ・覆砂後の浮泥堆積など、粒度組成を見ると砂礫分は減少傾向であり、今後メンテナンスの問題が出てくる。
植生がつく場が保たれるよう、覆砂の成果が保たれているか、何らかのモニタリングを継続的に行っていく必要がある。
（事務局）期間と頻度等の問題点を整理して検討したい。

（委員）

- ・新生堆積物の由来は川由来のものではないと考えて良いか。
（委員）そう考えて良いと思う。

(委員)

- ・境界条件が変わりながらの調査結果であり、周辺環境の水質、底質データがあるとよい。
- ・底生生物の多様性が増しているのは、食物連鎖が機能し始めているということ。ホトトギスガイが優先しているのは、系外へ排出してくれるような魚類や鳥類などのエサとなっていると思う。
- ・定量化はできていないが、食物連鎖が機能し始めていることを記述してはどうか。

(委員)

- ・ホトトギスガイは酸欠などでその場で腐ると、系外排出にはならないが、このときは海水交換の早さに関連してくる。小さな貝は生態系全体の中で系外への除去と同時に高次のエサになる役割をしている。大型のカニ、エイなどは消費量はかなり大きいと思う。

作濤効果について

(委員)

- ・8頁で流量算定結果は、測定条件が違うので、この程度の流出入の差がでて当然。この結果を作濤の効果とするのは無理がある。

(委員)

- ・9頁図17(断面流速ベクトル図)が非常にわかりにくい。報告書に載せるのであれば、意味のわからないのはまずい。

(委員)

- ・濤により潮汐残渣流をつくって海水交換を促進した効果が出ており、強調できる成果だと思う。8頁の流量算定は観測条件が違うので、比較するのは無理。
- ・「海域奥部」がどこのことかわからないので直すこと。

(事務局)

- ・評価項目から「流入割合の増加」を削除する。

(委員)

- ・作濤の効果は出ている。

報告書の構成案について

(委員)

- ・「博多港香椎地区の環境」というところがこの工事をしなければならない必然性が書かれている必要がある。